

研究題目

自学の力を育む「モジュール漢字の学習」の運営  
～小規模校における漢字の自由進度学習を通して～

目 次

I 研究のねらい

II 研究の経過と内容

- 1 「モジュール漢字の学習」のシステム
- 2 「モジュール漢字の学習」の実際
- 3 研究のまとめ



## I 研究のねらい

国語の授業で漢字の指導を行っている場面を目にすることがある。書き順や書き方のコツ、読み方、使い方を丁寧に指導し、さらに個別の練習時間をとって新出漢字を教えるのである。これにどれだけの授業時間が使われているのか、その実態は各学級によってまちまちであり、漢字に費やす時間が何時間あればよいのかは、指導書に示されていない。

最も新出漢字が多い3、4年生が仮に国語の時間の冒頭に毎時間漢字を1文字教えてもらうことに5分使ったとしよう。45分授業で年間約28時間が漢字を教えることに費やされただけでなく、その分、漢字以外の国語の時間は40分で行わなければならない。しかも毎時間1文字を扱うのでは新出漢字を全て知るのに200日を要する計算となる。

そもそも新出漢字は教えてもらわなければわからないことなのだろうか。ドリルには漢字の書き順から読み方、使い方まで示されているのに、である。

では、個々の児童に自由に取り組むよう言うだけで漢字を学ぶことはできるのだろうか。それができないから、教師はあの手この手で漢字を指導してきているのである。ただし、それは常に一斉学習であり、ともすれば家庭学習でさえ、書く量が示されていないだろうか。すでに覚えている子にとって、宿題だからとノートに決められた量の漢字を書き出すことに意味はあるのだろうか。

そんな問題点を解決しようと令和元年度から漢字の効果的な学び方を模索し、令和2年度から日課に「モジュール漢字の時間」を位置づけ、2年生以上の児童が一堂に会し、同じドリルを用いて自分のペースで漢字を覚える自由進度での漢字の習得を試みた。それによって

- ① 児童一人一人が自分に合った漢字の覚え方を知り、自立した学びを身に着ける。
- ② 自分の取り組み方次第で学年の枠を超えて学びを進めることの良さを味わう。
- ③ 多様な学び方があることを知り、それぞれの良さを認められる人間関係づくりに取り組む。

の3つの効果が期待できると考えた。また、児童だけでなく教師にとっても、

- ① 全職員が当番制で全校児童を支援することで、複数の目で様々な児童の見方を深めることができる。
- ② 一人一人の児童の学び方の特性を生かした支援の在り方について全職員で考え合うことができる。
- ③ 「モジュール漢字の時間」を国語の授業時数に位置付けることで、授業時数にゆとりが生まれるとともに、管理職2名、専科1名、担任2名の輪番制の5人体制で支援に入る体制により、担任の空き時間を確保することができる。

という効果が期待できると考えた。

## Ⅱ 研究の経過と内容

### 1 「モジュール漢字の学習」のシステム

#### (1) 「モジュール漢字の学習」の位置づけ

令和元年度からプロジェクトチームを立ち上げ、午後の清掃後の 15 分間を漢字の時間として日課に位置づけ、国語の時数に 35 時間分として組み込むこと、働き方改革の視点から教師の負担が少ない輪番制の支援体制をとることを決めた。(これにより担任は清掃後の約 20 分間、空き時間が持てるようになる)

#### (2) 効率よく漢字を覚えるために

効果的な漢字の取り組みについての文献調査から、漢字のような「覚える」活動においては、思い出す回数を多くすることが効果的であり、書く量よりも、パーツを意識して書くことや、漢字を使った文章を作ることの重要性が確認できた。量を書くのではなく、思い出す回数を増やす練習にするため

- ① 見て書く (パーツを意識して)
- ② 見ないでドリルに練習 (思い出し 1 回目)
- ③ 見ないで確認カードに書く (思い出し 2 回目) (文章中での使い方を大切にする。)
- ④ 家庭学習 (思い出し 3 回目)
- ⑤ 1 週間分のテスト (思い出し 4 回目)

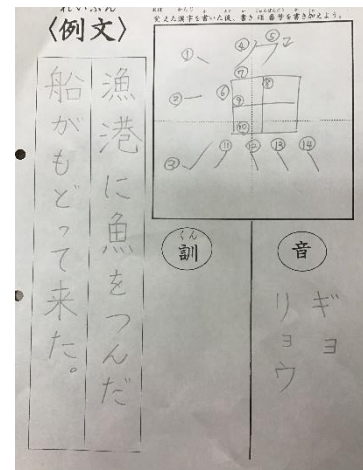
のように思い出す機会を最低 4 回は設けたいと考えた。

覚え方の個人差を考慮した自由進度学習を取り入れる上で、ドリル教材の選定は特に重要となる。練習量よりも、読み方、書き順に加えて文章を作る活動が組み込まれたドリルであることに加えて、学期の枠にとらわれずに漢字を学ぶことができるよう、年間 1 冊にまとめられたドリルが望ましい。令和 2 年度は教科書が新しくなる関係でどのメーカーも 1 学期分、もしくは上巻しか間に合っていない状況の中、少なくとも上下巻の分冊であり、10 文字ごとに復習テストがついているドリルという条件でドリルを選定した。

#### (3) 15 分間の運用の仕方

令和 2 年度に入ってから学力向上チームで、15 分間の具体的な運営システムと、このシステムを子どもたちにどう伝えていくかが検討された。

新出漢字 1 文字について、その読み方、使い方を確認した後、正しい書き順で漢字を書き、自分が「覚えた」と思えるまで練習をする。練習する量については各自に任せるので、練習用のマスをも埋める必要はない。その代



確認カード

わり正しく覚えたかを確認めるために、何も見ないで確認カードの大きなマスに書き順番号をつけて書き、音訓別の読み方と「覚えた」漢字を使って文章を書くことで自己評価を行う。さらに支援に入る教師が確認し合格印を押す。(確認カード)

この「新しい漢字の学び方」で、時間内に新出漢字2文字を習得することができれば、一番新出漢字量の多い3、4年生でも2学期後半には200文字の漢字を1度は学んだことになる。3学期は「モジュール漢字の学習」の全てを復習に充てられると考えた。

#### (4) 新しい漢字の学び方

このような漢字の学び方を子どもたちにわかりやすく伝えるために、「新しい漢字の学び方」を丁寧に説明したプレゼンテーションを作成した。(別紙資料参照)

児童だけでなく、職員もこの方法を全員で共通理解する必要がある。そのためにも説明が伝わるかを全職員で確認した上で4月の第1週から「モジュール漢字の学習」が始まった。

アプリで示された通りの「新しい漢字の学び方」で子どもたちが漢字ドリルをやってみると、ほぼ8割の児童が15分間で2文字から3文字の新しい漢字を覚えて「確認カード」に書くことができた。1文字しか確認カードに書けなかった児童も、残りの1文字分を家でやってきて翌日「確認カード」で評価してもらうことができ、これが必要に応じた家庭学習にもつながる。

このようにしてスタートした「モジュール漢字の学習」だったが、コロナ感染拡大による突然の臨時休業により、約1か月間、中断を余儀なくされた。「モジュール漢字の学習」が本格的に軌道に乗り始めたのは臨時休業明けの5月下旬からとなった。

### 漢字の時間について

- ①なぜ漢字を学習するの? → 読める 書ける 使える
- ②そのため「おぼえる」 → 自分で**おぼえればよい**
- ③おぼえるはやさ、おぼえかたは**人によってちがう**  
練習する数は**自分できめる**
- ④「**おぼえた**」とは? **いつでも正しく**「読める」  
「書ける」  
「つかえる」

かんじ まな かた  
**漢字の学び方**

**漢字ドリル**

- ①読む → 使い方も読む  
(使い方をを知る)
- ②書き順 → **言いながら、ゆび書き**
- ③なぞり書き → **パーツを考えながら**
- ④見ないで書く → **思い出しながら**

### おぼえたかどうかを、すぐにかくにん

- **1文字ずつかくにんカード**に書く
- **大きく書いて書きじゆんを番号で書きましょう。**
- **例文は、文章で書きましょう。**  
(使い方の例を参考に)

## 2 「モジュール漢字の学習」の実際

### (1) 異学年がともに学び合うよさ

休業明けからはコロナ感染予防対策としてランチルームの机にダンボールのパーテーションを設置し、1つの机に異学年が混在するような座席配置にした。私語を抑えるという意味もあったが、高学年の姿が低学年に良い影響を与えることに加え、高学年の児童も低学年の模範となる姿を見せたいという相互作用で、期待以上の効果があった。また自由進捗で学びを進められることから、競い合うかのように、早く進めたい児童が清掃終了直後から自分の席で黙々と漢字の学習を始めたことで、真剣に取り組む雰囲気が一気に全体に広まった。こうして15分間の「モジュール漢字の学習」は心地よいほど静かで集中した学びの時間となっていた。



### (2) 進級式復習テストの導入で定着の確認

「モジュール漢字の学習」が軌道に乗ったことで、7月下旬には9月までの漢字がまとめられた漢字ドリルの上巻が終わる児童が出始めた。上巻の終わりが見えてきた6月下旬の段階で下巻のドリルの購入を依頼したが、今年度は教科書が新しくなったことで下巻の発売が遅れ、すぐには入手できないということがわかった。もっとも通常であれば下巻の購入は9月下旬である。当初の見込みより子どもたちの学びを進めるペースが早いのだ。そこで下巻のドリル待ちの時間を有効活用するために、10文字学ぶごとに行う復習テストを再度、進級式で総復習できる漢字テスト進級カードを用意した。



テスト番号	日付	得点	合格	不合格
テスト1	12/25	12/25	○	
テスト2	12/27	12/27	○	
テスト3	12/27	12/27	○	
テスト4	12/27	12/27	○	
テスト5	12/27	12/27	○	
テスト6	12/27	12/27	○	
テスト7	12/27	12/27	○	
テスト8	12/27	12/27	○	
テスト9	12/27	12/27	○	
テスト10	12/28	12/28	○	
テスト11	12/27	12/27	○	
テスト12	12/27	12/27	○	
テスト13				
テスト14				
テスト15				

(進級カード↑)

上巻についている各テストはダウンロードしてプリントできるようになっている。テスト1から15を学年ごとに棚に用意し、テスト1から順に満点で合格したら、次のテスト2に進むことができるようにした。

全部で15まであるテストを全て満点で合格したら初級の合格である。再度1～15までのテストを1から繰り返して中級合格、更に1から15までのテスト全てを合格すると上級合格である。3段階の全てを満点合格したところで下巻のドリルに進むことができる。

15まであるテストを1から3回くりかえす効果は大きく、初級から中級、上級へと

進むにつれ、簡単に満点が取れるようになっていく。初級の頃（初めてのテスト）では3回も4回も同じテストに挑戦してやっと合格していた児童が上級段階になると1回目ですんなり合格していく。

「すごいね」と声をかけると「もう上級だから」と自信をもって答える姿も見られるようになった。努力の積み重ねは、分厚くなっていく漢字ファイルが物語っていた。



進級テストで自分の力がどの程度ついているかが明確にわかる事、努力した分だけ先に進められることで漢字が得意な児童だけでなく、今まであまり積極的ではなかった児童のやる気も明らかに高まっていった。

その一方で、書くことが苦手でなかなかドリル学習が進まない児童やテストになると合格できない数名の児童（書いても覚えられない児童）の困り感が顕著になってきた。やる気に満ちた雰囲気の中で、一生懸命頑張っている。頑張っているのに覚えられない。

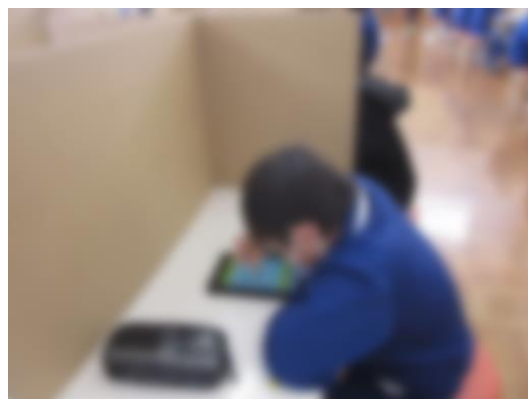
個に応じた学び方を推奨してきたはずだったが、この「漢字の学び方」では、うまく身につけることができないのである。書くことに抵抗感があるため、量を練習することには無理がある。そんな困り感に寄り添えていなかったことを改めて思い知らされた。

では、どうするか。

### （3）個に応じた学び方の模索

#### ①タブレットの活用

紙に書くことに対して苦手意識をもっている3年生のA児には、タブレットにインストールした即時採点機能のついた漢字アプリ（無料）を試しに試してもらった。書いている途中でわからなくなったら、答えを確認すると、書き順からアニメーションで見ることができる。それをなぞり書きし、もう一度書けるようになったかを試してみる。合っていれば即時に丸がつく。タブレットの漢字アプリを使う良さは、文字を大きく書けることと、1文字ずつのトライ&エラーを何度も繰り返すことができる点にある。「書いて練習している」という感覚よりも、書いた答えに即○がつくことで「テストで○がもらえた＝書けた」という実感が残る。A児は、1、2年生の漢字も十分に



覚えていないため、漢字をパーツで組み合わせていくという感覚がもてないでいた。そこで、1年生の漢字から取り組むことにした。パーテーションで区切られていることもあり、A児が1年生の漢字を書くことにも抵抗感なく、むしろ1文字ずつ簡単に合格していけることを楽しみにタブレット学習に黙々と取り組むようになった。1年生の漢字が定着してくると、画数が多くなる2年生の漢字も少しずつ書けるようになってくる。本来3年生の漢字をやらなければならないところだが、できないところからしっかり復習していくことが、これからの学びには必要だと考えた。12月の段階で3年生の漢字を7割程度習得できている。

同じように思うように進められないでいた3年生のB児も2学期に入ってタブレットを使ってやってみたいと申し出てきた。B児は家にタブレットがあるので保護者と相談し、家では1から2年生の復習を行い、学校では3年生の漢字をタブレットを使って進めている。

## ②見て覚えるドリルの活用

4年生のC児は記憶力が高いにもかかわらず、書くことが嫌いで「書きたくない」「面倒くさい」を連発していた。自分よりも漢字が書けないと思っていた友達が着々と進級テストで合格していく姿に焦りと苛立ちを感じ、ますます漢字嫌いになっていた。やる気をもてないでいるC児には市販の「見るだけで暗記ができる」と謳う本を試してみないかと持ち掛けた。

これは1ページ分約10問の例文に含まれた10個の漢字熟語を1分で書き、書けなかった漢字だけを30秒間見て覚え、再度テストする形式になっている。1から3年生までの漢字を20枚のテストにまとめられているため、1日1枚覚えると20日で1から3年生の漢字の総復習ができる。書くことが嫌いなC児は「見るだけでよい」という言葉と、書けない漢字だけ、本当に覚えたかどうかをチェックするという一見書く量が少なく感じられるやり方が気に入り、かなりの量の漢字を実際には書いて、短期間に覚えることができた。

始めた当初は、自分だけ違うドリルを使っている姿を見られたくないと、別室で取り組み始めたC児だったが、2学期の後半になると他の児童も上下巻の進級テストをすべて終え、漢字検定の問題集に取り組んだり、次の学年の漢字ドリルに進んだり、下巻の進級テストに取り組んでいたりと、タブレットを活用している児童がいたり、個に応じた様々な形で漢字に取り組んでいる姿に触れ、全体の間でも自信をもって、取り組むようになった。



### 3 研究のまとめ

#### (1) 研究の成果

2学期末に「モジュール漢字の学習」に対するアンケートを児童と教職員に対して行った。2年生から6年生までの48人に対して行ったアンケートの結果、「あまりよくない」と感じる児童は一人もいなかった。

よいと感じる理由を複数回答で答えてもらったところ、「自分のペースで進められることがよい」と感じる児童が最も多かった。

また、教師に対するアンケートでは、全員が「よい」または「とてもよい」と回答し、「自分のペースで進められる」「いろいろな学年が集まる」「いろいろな先生が見てくれる」「いろいろな方法で学べる」の他、「他学年の児童の取り組みを見て刺激になる」などのよさが挙げられた。

2学期末の時点で、該当学年の漢字ドリルをすべて終えた児童は48人中41人で1月中にはすべての児童が配当学年の漢字を終えることができた。

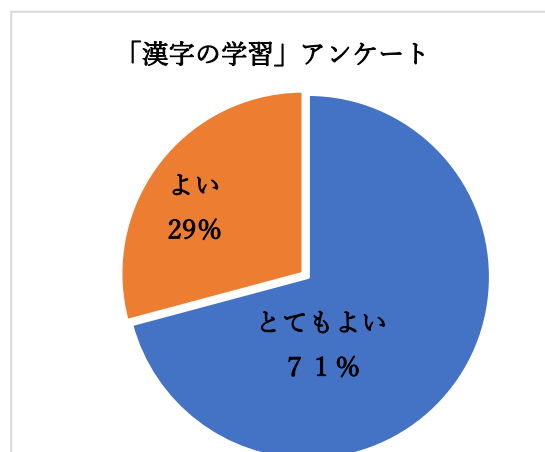
また、総復習のテストを終えている（上下巻の復習テスト15枚を満点でクリアしている）児童は34名で、全体の7割を超えていた。

コロナによる臨時休業があつたにもかかわらず、このペースで漢字を学ぶことができていくことに加え、児童が自分の学び方を考え、受け身ではなく自分なりに工夫して主体的に取り組んでいる姿は、本校で願う自学の力が身につけてきていると言える。

さらに、文字を書くことが極端に苦手意識のある児童にとって、このような多様な学び方の効果を実感できたことで、漢字に対する苦手意識が薄れたことも大きな成果と言える。

#### (2) 今後の課題

少人数のよさを生かし、漢字に特化して個に応じた学びの場を作った「モジュール漢字の学習」であるが、一斉テストなどで定着度を評価し、前年度の漢字の定着率と比較し、効果を検証していく必要がある。また、学年の枠を取り払った自由進度学習のよさを生かし、漢字検定などを活用して実力を実感し自信をつけてほしい。



よいと感じる理由	人数
①自分のペースで進められる	38人
②覚えやすい	17人
③毎日ある	17人
④色々な方法で学べる	17人
⑤やる気が出る	17人
⑥色々な先生が見てくれる	15人
⑦色々な学年がいる	6人
⑧書く量が少ない	3人

漢字は一度覚えたからといって使わなければ忘れてしまうものである。より日常的に活用する力をつけていくことで、語彙を増やし、総合的に国語力の向上にもつなげていきたいと考えている。

(添付資料)

「モジュール漢字の学習」説明用プレゼンテーション


**漢字の学習について**

- ①なぜ漢字を学習するの？→読める 書ける 使える
- ②そのために「おぼえる」→自分で**おぼえればよい**
- ③おぼえるはやさ、おぼえかたは**人によってちがう**  
練習する数は**自分できめる**
- ④「**おぼえた**」とは？ **いつでも正しく**「読める」  
「書ける」  
「つかえる」

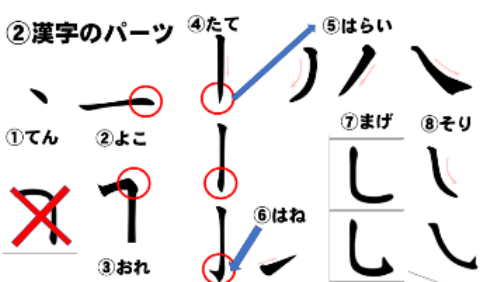
ただ か . . .  
**正しく書くコツ**

- ①正しい書きじゅん

- ・左から右へ→
- ・上から下へ↓



②漢字のパーツ




かんじ まな かた  
**漢字の学び方**

- ①読む→使い方も読む  
(使い方を知る)
- ②書き順→**言いながら、ゆび書き**
- ③なぞり書き→パーツを考えながら
- ④見ないで書く→**思い出しながら** (1回目)

**漢字ドリル**

**おぼえたかどうかを、すくにかくにん**

- ・1文字ずつかくにんカードに書く
- ・大きく書いて書きじゅんを番号で書きましょう。
- ・例文は、文章で書きましょう。(使い方の例を参考に)



**1日1ページを読んで書けるようにします**

- ・1日 **2~3文字**をおぼえよう。

**漢字ドリル**

- ・**コツ**を考えながら (書き順・パーツ)
- ・**数よりも、**考えながらていねいに

金曜日は1週間分のテスト10問  
おぼえているかを、かくにんしてからテスト

**テストの練習** → **テスト**


- ・これで ~~ん~~んしん!
- わすれます

**わすれないコツ**

**わすれそうになったときに、くりかえし思い出す**




**1回目 おぼえたら見ないで練習**



書きじゅんも思い出そう

**2回目、かきおわたったあと思い出す**



かんぺきくんを書いたあと、何も見ないでかけるかな？確認カードに書いてみよう

3回目、いえにかえたあと思い出す  
じしゅべんきょうで毎日やろう！



やり方は  
いろいろ

4回目、1週間たって（金曜日）思い出す

テストの  
練習



テスト

思い出す回数が多いほど  
わすれない！

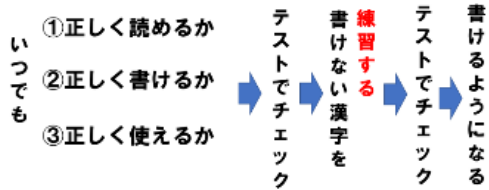
つかうほど、わすれない

土日はできなかった漢字の練習

漢字ノートに自主勉強を！

- おなじ「へん」の漢字を集める  
→木・林・森・村・校・材・相
- 使い方をいくつも考える
- 熟語をあつめる→森林・林道・林業

自分のために学ぶ「漢字の学習」では  
「ドリルをやって終わり」ではない



自分のために学ぶ  
「漢字の学習」にしましょう！